

---

# 縁結びの神様～宰相と王の攻防～ 【連載版】

ふちもん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

縁結びの神様〜宰相と王の攻防〜 【連載版】

### 【Nコード】

N0458Y

### 【作者名】

ぶちもん

### 【あらすじ】

いつまでたっても結婚しようとしないう國王にしびれを切らして、宰相が頑張るお話です。 超不定期連載です。更新は作者の気分次第。

## 序章

この怒りは、何処に置けばいいというのか。

もう、これは私の耐え得る、我慢の臨界点を突破している。

私が宰相になりたての頃は、国内政治さえ安定していなかった為、根回しに奔走し、それこそ身を粉にして王を支えた。

多忙を極める中にも私の眼鏡にかなった姫君を、王の元に連れていったが、適当な理由をつけられて断られてしまった。

家格、性格、年齢、容姿、選びぬかれた姫君だったのに。

私も来年には30歳。宰相に就任してからもはや5年の月日が流れた。

こうなったからには遠慮はしない。この際、王には思い切った妥協と提案が必要だ。

書類に埋め尽くされた執務室の中で、そう誓う。

このままの現状維持では未来永劫、王は結婚できないだろう。

「陛下。大祭の折には花嫁候補を近隣諸国からも招きたいと存じま

す。つきましては、その準備のため、サイラン国へ参りたいのですが」

「宰相……私の花嫁探しは確かに懸念事項かもしれない。」

ええ、40年来の大問題です。

多人数の女性が集まるようなパーティーは何時も何かと理由をつけて欠席。あまり人が多いのは苦手なのかと思って、一対一のお見合いをセッティングしようとしても、何が気に食わないというのか、それ自体を拒否するのだ。

結婚するぐらいなら禅譲すると言われた事もある。

私以外の者であればその時点であきらめていただろう。それだけ王の意思は固く、その件に触れようとすると背筋も凍るような殺気すら飛んでくるほどだ。

仕える対象としては最高の部類だが、王を戒めるということは、どのうな王であろうとも厄介なものだ。その優秀すぎる頭をフル回転させてお見合いを破棄させようと知力を絞ってくる。

何とか見合いを受けるといふ段取りにこぎつけても油断はできない。逢う時は極めてそつけない。1分1秒でもその場を離れたいのだろう、まるで相手が空気であるかのように振る舞う。姫君達もその程度では諦めないで様々なモーションを試みるのだが、結果としては王の軍配が上がる。

そもそも我が王は、過去5年の間に仕事以外で自ら女性に接触しようとしていない。

焦って何が悪い。

大祭は10年に1度しか開催されない。いくら王でも、この大祭に欠席というわけにはいくまい。それを見込んで、素晴らしい女性を送りつけてやるのだ。そうしたら、結婚したいと思うような女性に巡り会って、恋に落ちるかもしれない。

ほぼ、私の願望ですけどね！

そうなつてくださいと神にお祈りしております！！

「我が国の統計では、寿命の長い魔法憑きでも平均結婚年齢は25歳、王位についている者はそれよりも低い20歳ぐらいで結婚しております。国民の不安を和らげるためにも、せめて側室の1人ぐらいは設けるべきです。」

縁談の話だけは国内外から、私の手元に届くのだ。

既に手元にある縁談の資料を見れば、国内外の姫君を網羅していると言っても憚りはないかもしれない。

事実、その提供された姫君達の情報を求めて、独身の王侯貴族がこぞって私のところへ来る。

国内だけであるならまだ国益にも叶うが、国外からの求めは業務妨害も甚だしい。

花嫁は自分の情報網で探せと怒鳴りつけて返したこともある。

「しかし、何も最優先事項ではない。お前自らが行く必要性がどこにある！何日も国を離れられると仕事が滞る。その間の経済的損失も少なくはないだろう。」

予想通り。

言われると思っております。陛下は1に仕事2に仕事3に仕事。仕事に興味みたいなものなんだから、このお年まで結婚相手が決まらないのだ。女の相手なんかしている時間ももつたないと、王は豪語する。

そのような王だからこそ、花嫁探しに比べれば他の事など些事に等しい。

皇太后様に至っては

『初孫はいつになつたらできるのかしらねえ、心待ちにしてるのだけれども。』  
と悲しげな面持ちで相談される始末。

まるで、私が、脳無しみたいじゃないですか。

心根は優しい王だから、一度結婚が決まればあきらめて子作りでもするだろう。

この結婚話は何がなんでも進展させないと私の沽券に関わるのだ。

「過去、陛下のお相手を探した経験があります。その経験から踏まえて、今回の花嫁選びも厳選する所存です。」

これでも観察眼はあると自負している。

陛下の横に立つのが相応しい人物でなければ、結婚する意味はなく、その点に関しては妥協できない。国王妃が王を墮落させる例など、

過去の歴史を紐解けば、相当数ある。

貴族でなくともその人となりさえ素晴らしければパーティに参加させる意向である。国内外のめぼしい姫君はすでに撃沈しており、通常の者では、この王に嫁ぐのは難しいだろう。寧ろ冒険者のように意思が強く、腕っ節もあるほうが王の目に留まるかもしれない。

「私の代理には副宰相のレグサーが就きます。風の精霊ビスケを置いておきますので、私の判断が必要な重要案件につきましてはそちらを通して私にご連絡頂ければ宜しかと。」

「…しかしだな…リシエ…」

半ば私を問い詰めるかのように見る双眼に、視線を外すことなく言う。

「恐れ多くも！王は今年で40歳であられます。寿命が民よりも長いとは言え、悠長に構えていては、国のためにもなりません。先代国王も探すのに苦労されて、花嫁を見つけるのに20年も要したではございませぬか。この国もこの5年で大分国力を回復しました。王が愛することのできる者を得るためにも、花嫁を見つける事に全力を尽くすべきです。」

本音は、個人的に結婚して欲しいからだとは、恥ずかしくて到底いえません。

国王陛下には幸せになってもらいます。女なんて必要ないだなんて、そんな悲しい言葉、言わせたくありません。

頑固で気難しく、意地っ張りな陛下であっても、きっとメロメロにしてくれる人がいるはずです。

そんな女性を、あきらめないで探していれば、きっと叶う夢。

私は、そう信じています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0458y/>

---

縁結びの神様～宰相と王の攻防～【連載版】

2011年10月30日08時21分発行